



くれ

924号
2022年1月25日
郵政産業労働者ユニオン
呉支部発行



←中国地本HPへ
PC・スマホ等から
この情報が閲覧可！



メールはこちら→

改悪許さない決意を

見直しと平等

不合理な格差を無くし、労働者が働きやすい様に、労働条件を平等にする。

何の説明もなく、言葉だけ聞けば、誰もが良いと思えるだろう。

しかし、労働条件を引き下げて平等にするとなると話は別だ。

ネットでは、「待遇が引き下げられ」やがてすべてが非正規となる」や「ブラック企業」などの意見が上がった。
待遇改善を期待する社



【集団訴訟の舞台、広島地方裁判所】

員に対する会社の方針は誠実さが欠けている。

富の分配

では会社が上げた富の分配はどうであったろう。

経営陣は、コロナ禍や社会状況の見通しが厳しいとして、利益の還元を見送ってきた。

しかし、社員の頑張りにより利益（内部留保含む）は増えている。

一方、過去の経営陣は、増やした資産を投資して、巨額な損害を会社に与えたりもした。

経営陣も状況により、報酬の減額なども行つたが、本心に厳しいのであれば、自分達から報酬の引き下げや退職金の減額を行うのが先だろう。

経営陣自身の待遇は死守するが、労働者の待遇は引き下げるでは、労使双方が納得して協定を結ぶことさえできない。

人員削減を優先

会社は経営計画 J P

ビジョン2025で効率化を掲げている。

グループ全体で、約3万5千人相当の労働力が削減される見込みである。

人員不足で土曜休配を総務省に要請したが、人員削減こそ、会社の狙いであったのではなからうか。

なぜなら、土曜休配による労働力の削減効果は大きい。

それでも、正社員の夏期・冬期休暇を削減し、期間雇用社員に振り分ける見直し案を出した。

また、病気休暇の見直し案でも、これまで認められた生理休暇を認めず、31日以上療養が必要となる病気のみ使用可能とするなど、社員の労働日数確保に重点を当てた改悪案となっているからだ。

オミクロン株の脅威

急激な感染拡大が懸念され、感染者や濃厚接触者に認定される人が増えている。

特にエッセンシャルワーカーである病院や保育所、学校関係者で感染者や濃厚接触者が増えており、業務に影響が出ていると聞く。

社会への影響は大きいですが、課題も多く簡単に対処できない問題だけに世界中が苦慮している。

私達にできる対策は限られているが、感染防止に努めたい。

不祥事の発覚続く

山口県奈美郵便局で、元局長の横領が発覚した。実質横領額は約4,700万円だが、犯行額は1億1,600万円と、横領と補填を繰り返した分、金額が大きくなった。

会社は、横領発覚の度、再発防止策を実施するが、効果は弱いと言える。

本件は、4年前から犯行が行われていた。昨年、長崎県で発覚した10億円を超える横領は、横領期間や額、そして会社が被害者に補償した事がニュースとなり、再発防止を行うも本件は見逃された。会社の監査にも問題がある。

監査が来る事を管理者は事前に知っている事があるからだ。

知っていれば、事前に補填や隠匿行為が行える。

逆に全く知らず、監査者が郵便局の開錠前からスタンプバイしており、ビックリしたという話も管理者から聞いた事はあるが、監査するのであれば、そうでなければ意味がない。

また、大阪では、ワクチン接種券を含む郵便物の放棄隠匿で社員が逮捕された。

放棄隠匿に弁明はできないが、その様な状況にならない指導や支援をできなかったのか、残念で仕方ない。

今後の予定

- 2月4～5日(金土) 13:00～
第10回中央委員会
ラパスホール
- 2月4日(金) 13:30～
集団訴訟・進行協議
広島地方裁判所
- 2月8日(火) 17:00～
第4回呉支部執行委員会
支部事務所

次号は 2月8日 予定